

12.主要科目の特長及び目標

(1) 保育士コース(指定保育士要請施設)

教科科目	科目の特長	科目の目標
芸術と文明	世界の歴史において各地域で展開した東西諸文明と、これを代表するすぐれた芸術作品～絵画・彫刻・建築・詩・小説・演劇～などをとりあげ、人類文化を考察する。	古今東西の芸術作品を、それらが生み出された諸文明の中で捉え、歴史的・総合的に理解する。
情報処理演習Ⅰ	コンピューターおよび情報機器・媒体についての知識を学び、その操作・活用ができるようになると共に文部科学省後援の「文書デザイン検定試験」などの上級検定試験に対応した授業を進める。	社会人として保育園などで働く場合に求められる、コンピューターを活用する能力を習得する。
保育原理	保育所指針をしっかり読み込み、その中から保育をめぐる問題となっている事柄を洗い出し、それらの問題について、自分自身で考えられるようにする。	保育所指針に示されている保育の内容・計画、こどもの安全・健康など、保育の基礎・基本を確実に身につける。
社会的養護	養育・保護・子どもであることへの回復・生活文化と生活力の習得・生命倫理観の醸成からなる5つの原理について、養護の価値観をベースに学ぶ。子どもの権利と援助の理念について、制度や事例を基に学ぶ。	子どもの権利と援助の理念を学び、養護の価値観を習得する。施設実習に参加するために、養護原理を理解し、養護原理を活用できるようにする。
保育の心理学Ⅰ	主として乳児期における発達についての基本的な臨床心理学的観点から概説する。内容は、発達の定義と原理、発達課題、身体の発達、自我と人格の発達、感覚と運動の発達、記憶発達、情緒と欲求の発達、社会性の発達を取り上げる。	発達心理学の知識を応用し、乳児期の発達を促すための援助の在り方や、発達環境として重要な実践的課題を習得する。
子供の食と栄養Ⅰ	栄養・食生活の基礎知識をもとに小児期の各発達段階に応じた食事・食習慣はどうあるべきかを主に学ぶ。併せて食教育・食文化に関する教材の作成方法、乳幼児食の調理法を学び、保育士として食事指導ができる能力を養う。	小児期の各発達段階に応じた食事・食習慣はどうあるべきかについて理解する。
保育課程論	保育は総合活動であり、生活と遊びの中に養護と教育とが含まれる。ひとつの取り組みを通して、子どもの自主的活動が生かせるような遊びを計画、実践していく。具体的には、指導計画作成の意義と手順、そのポイントを学び、さらに劇遊びの指導計画、週案と日案の作成などについて学ぶ。	保育の計画を立てることに始まり、一人一人の子どもの思いを工夫できる指導計画を作成する能力を養う。
乳児保育Ⅰ	人間形成の第一段階として、乳幼児期がいかに大切かを学ぶ。具体的には基本生活の管理方法、身体的発達と生活管理、精神的発達と生活管理が挙げられる。また乳幼児を取り巻く諸問題についても考える。	人間形成において乳幼児期がいかに大切かを学ぶ。
音楽Ⅰ	保育の現場で不可欠な楽器(ピアノ)の演奏力をつける。個人レッスンの形をとり、主に教則本を用い進度に応じて指導していく。また、楽譜を正しく理解するための楽典を学び、読譜力を養う。	保育者として必要なピアノの演奏技術・表現法を学び、幼児音楽のありかたについて理解する。
ゼミナールⅠ	決められたテーマについて、学生が研究・発表をおこなう。	課題発見能力、レポートにまとめる能力、プレゼンテーション能力を養うことを目標とする